



虹っ子だより

家庭数

北本市立中丸東小学校

5月号 令和8年4月27日

やさしい子

たくましい子

進んで学ぶ子

な

か

ひ

が

教室は「優しさ」に支えられて「間違い」「驚き」成長するところ

校長 岡安 栄一

校庭の木々の新緑が美しく、学習や運動を行いやすいこの時期、児童は授業中に教職員や友達の発言をよく聴き、学習に一生懸命に取り組んでいます。

授業を受けた経験のある方なら誰でも、一人で考えていると、「どうしても問題の解決方法が思いつかない」という経験をされたことがあるでしょう。そんなとき、話し合いの中で、友達のふとした発言や教職員のヒントに「なるほど!」と気づき、視界が一気に開けるように感じたことはないでしょうか。このような気づきは、自分一人の力では到達できませんが、その問題の解決方法を知っている周りの人たちからヒントやコツを教えてもらうともたらされるもの。これは人から教えてもらうとできるようになる、いわば「伸びしろ」です。この「伸びしろ」のことを「発達の最近接領域」とも言います。

この「発達の最近接領域」は個人や発達段階によって違いがありますが、誰にも共通して言えるのは、独力では到達できないということです。つまり、自分にとっては当たり前を活用できる「知識や技能」だけでは到達できない領域です。そのため、ある程度の試行錯誤を繰り返すことになり、その中で生じるのが「どうすればいいのだろう?」、「自分にとっての当たり前が通用しない!」といった驚き。この「驚き」が学習意欲につながります。本校の授業の中でも「わあ!」「どうして?」という歓声が聞こえてくることがあります。この歓声(驚き)が学習意欲を刺激するから、友達の考えや教職員のヒントを聴こうとしたり、本で調べてみようとしたりする意欲が生じます。

そこで、本校の授業では、児童が自力解決をした後、小グループやクラス全体での話し合い、発表を重視しています。この「話し合い」や「発表」で児童一人一人の「伸びしろ」に働きかけ「なるほど!」という気づきを喚起させたいと考えています。現在、本校で児童の「思いを表現する活動を通して、学ぶ楽しさを味わえる授業」を目指し、児童の学年や実態に応じて多少の変化はありますが、「話し合い」や「発表」を重視した指導方法に全クラスが取り組んでいます。

また、ここで、自分にとっての「当たり前(常識)」を適用するときの試行錯誤は平たく言えば「間違えること」です。この間違えることを通して今までの自分にとっての「常識」を作り替え、それに習熟していくことによって、新たな「常識」を形成する一。これを踏まえると、「児童にとって教室は間違いながら成長するところ」と言えます。

そのような教室を実現するために必要なのが「間違えても大丈夫」と児童一人一人が安心していられる空間。そのために、昨年度から引き続き、「共感」と「折り合い」を兼ね備えた「やさしい子」の育成に努めます。また、この「共感」と「折り合い」をさらに平明に表現している下の「4つの約束」も昨年度と同様に指導してまいります。

このような「やさしさ」を基盤に「驚き」と「間違い」を通して児童が昨日までの自分を超えていける学校をつくっていきたいと考えています。

虹っ子 四つの約束 「やさしい子」

🌱 友達と仲良くしよう

🌱 相手の気持ちを考えよう

🌱 人の話をしっかりと聞こう

🌱 自分自身のことを大切にしよう

・・・みんなが笑顔いっぱいになりますように・・・

🌱 クローバーの花言葉『幸福・約束』 🌱